

「教育・子育て」について

P1

受付月	題名	内容	回答要約	担当部
5月	すくすくの杜の運営について	<p>我が家には3人の小学生の子供がいる。子供をつれてすくすくの杜へ行って見たが、3歳までしか入れないと言われ中を見ることもなく帰ってきた。</p> <p>学童の子供は入っており、児童館なら小学生でも利用できる。フロアを分けるとか、図書館にするとか、トイレが使える水が飲めるとか、小学生でも利用できるようにできないか。</p> <p>欽明台にいる子供たちも大きくなり、すくすくの杜を利用できる世帯はどれくらいあるのだろうか。子供が大きくなって今更建てられるぐらいなら空地のほうがましである。これから子供が増えるにしても3歳までなら利用期間は短い。みんなが集まれるよう開放してほしい。</p>	<p>八幡市では3～5歳児では97%という高い就園率であり、小学生も8校の施設で安全に過ごせる環境が準備されています。一方、0～3歳児未満児の多くは、家庭で子育てされ、親子で遊べたり、過ごせる施設はこれまで市内には2カ所の子育て支援センターのみとなっており、3番目の施設として、すくすくの杜を開設することといたしました。</p> <p>すくすくの杜では、市民のどなたでもお立ち寄りいただける冷水器を設置した「ほっと・スポット」を設け、小学生のお子さんにもご利用いただけます。</p> <p>種々の意見はあるかと思いますが、子育て支援センターとしての機能の充実を図り、利用者の状況を見つうえで、検討・協議をする予定です。</p>	福祉部
5月	有都こども園保育時間について	<p>仕事復帰後も継続して有都こども園に子どもを預けたいが、今の保育時間では困難であり、他の19時までで行っている園では家から遠く結果として通園は困難。</p> <p>地域とのつながりも大切にたく、住んでいる地域の保育所に預けたい。</p> <p>子ども・子育て支援新制度でも保育時間の見直し、拡充が挙げられていた。市内公立保育園、こども園の受け入れ時間の拡充をお願いしたい。</p>	<p>延長保育事業について、有都こども園では実施しておりませんが、平成27年度は、認定こども園1園、保育園9園、合計10園で実施しております。また、長時間の保育が必要な方には、できる限り延長保育実施園に優先的に入園できるよう配慮しているところです。</p> <p>「八幡市子ども・子育て支援事業計画」では、延長保育事業を拡大することとしておりますが、現時点はいつ、どこの園で新たに実施するかは未定です。</p>	福祉部
10月	公立幼稚園の年中・年長の学級定数について	<p>3歳の子が公立幼稚園に通園しており、3歳児は1クラス20人の定数で31人が2クラスで過ごしている。</p> <p>3歳児にとって見守られるのに大変好ましい人数である。</p> <p>しかし、4歳児になると学級定数が35人で1クラスになると見込まれる。園に相談すると先生も30人未満が好ましいと言います。障がい児も含まれており31人が1クラスでは多すぎる。有都こども園では15人2クラスと言われている。子ども・子育て新制度では保育の質の向上をうたわれており、幼稚園でも人的配置の面で支援をお願いしたい。</p>	<p>文部科学省が定める幼稚園設置基準では「1学級の幼児数は、35人以下を原則とする」と規定されており、八幡市立幼稚園規則では、「1学級の幼児数は、35人以下を原則とする。ただし、3歳児保育の場合、1学級の幼児数は、20人以下を原則とする。」と規定しております。</p> <p>八幡市では、3歳児は初めて集団生活を体験する子どもが無理なくなじんでいけるよう、1クラスを20対1の定数で保育いたしております。</p> <p>3歳児で一年間の保育を経験し、4歳児では大きくなった集団の中で友達や周りの人に自分の思いを伝えながら力を発揮していけるように、また5歳児では、次の小学校に向け自信を持って就学していく力をつけていけるように担任が保育内容を考え、個々に必要な援助をしながら、1クラス35対1の定数で保育を行っております。</p> <p>配置基準は上記のようになっていますが、特別な配慮や支援を要する園児については、個々の課題に配慮した支援加配を配置しております。</p>	福祉部
11月	幼児教育について	<p>昨年、他県から転入してきたが、八幡市の幼児教育への取り組みに不安と物足りなさを感じる。</p> <p>図書館での読み聞かせ会では、4歳からしか参加できない。転入前の市では2歳から参加でき、他にも子育てサークル活動など、活発に取り組みが行われていた。</p> <p>現在、子どもが公立幼稚園の年少に通っているが、幼児教育の遅れを感じる。先生方には熱心に指導していただいているが、来年は年中への進級し、現在の2クラスが1クラスになるという事で不安である。来年も2クラスで手厚く指導いただけるようお願いしたい。</p>	<p>学力の基本は、幼児期の言語体験であると思っています。(今年の夏に出版されました『幼児教育の経済学』(ジェームズ・J・ヘックマン著)では、認知能力だけではなく、忍耐力、協調性、計画力といった非認知能力でも重要ということを明らかにされているようで、職員には、『「学力」の経済学』とこの本をすすめているところです。)</p> <p>しかし、これまでの取り組みと合わせ、その思いを具体的な施策にするかは、これからという状況ですので、いただきましたご意見も参考にさせていただきます。</p>	福祉部

「教育・子育て」について

P2

受付月	題名	内容	回答要約	担当部
11月	放課後学習クラブについて	<p>放課後学習クラブで子どもに漢字・数学検定を勉強させているが、5月11月までで出席率が8割を満たしていれば検定の受講料は市教育委員会が負担してくれるという制度。インフルエンザ等の出席停止となる病気は公欠扱いだが、その他はどのような理由でも欠席とするのは厳しすぎるのではないかと。</p> <p>他の病気のため学校行事にも参加できず、放課後学習も欠席を余儀なくされたが、出席率が低く免除を受けられなかった。</p> <p>ズル休みをしても8割を超えれば免除され、行きたくても行けない状況である者は評価されない現実には子どもには厳しすぎると思う。せめて診断書が取れる病気等については考慮してほしい。</p>	<p>今年度、お子様はやわた放課後学習クラブに参加され、熱心に取り組まれておられますが、漢字及び数学検定の検定料免除基準は、出席日数及び開催時間の8割以上の参加というルールで、今回お子様については免除対象外となりました。</p> <p>免除基準の8割を算出する際には、学校の場合と同様に、流行性疾病など出席停止扱いとする場合などに限り、除外することとしております。</p>	教育部
12月	綿づくり体験について	<p>先日、生涯学習センターで綿についての昔体験の行事があった。コットンボールから布までの工程を経て、その時はコースターを作った。他の町では小学生にこの体験をさせているそうである。八幡は岩田帯の発祥の地で、昔は岩田の方で綿の栽培が盛んだと聞く。八幡の子どもたちにも昔体験をさせてあげたい。ふるさと学習館に綿くり器を買えば誰でも体験できる。</p>	<p>ふるさと学習館では、古文書を読む、古代のアクセサリを作る、古くからある技術を学ぶことなどを通じて、ふるさと八幡の歴史に親しんでいただく機会とするために体験学習を実施しています。</p> <p>これらの講座は、原則、学習館の職員を講師とし、各講座とも定員を超える申し込みをいただいております。市民の皆様から高い関心をいただいていると考えています。</p> <p>ご指摘いただいた内容については、小学生の社会見学時における民族資料の体験学習の機会などを通じてニーズの把握に努めるなど、調査研究を行ってまいります。</p>	教育部
3月	施設建設のための予算決定の経緯について	<p>子ども・子育て支援センター建設に関して、新聞記事では他の子育て支援施設に比べ、あまりに突出しているように思う。「施設11億もかかったんだって、無駄よね」という利用者の声も聞く。</p> <p>施設内容の決まり方、設計時のイニシアチブの取り方、予算額の決め方、補正予算での議会での決まり方について経緯を含め教えてほしい。</p> <p>また、子どもたちに木々のある雰囲気を感じさせるなら敷地内に林の木立を作るなど周辺環境を整備してはどうか。</p>	<p>本整備事業の実質的なスタートは、平成25年1月の木造公共補助金に係る国の平成24年度補正予算を受け、3月の平成25年第1回定例会当初予算に実施設計業務委託費として1000万円を計上し、市議会で可決いただきました。</p> <p>整備費の予算計上の推移及び議会での審議につきましては、平成25年9月の第3回定例会におきまして、整備事業費11億5000万円（用地取得5億7000万円、工事費5億6300万円）を補正予算に計上し、市議会で可決いただきました。</p> <p>平成25年12月の第4回定例会には、太陽光発電設備及び消費税の増税分をいたしまして工事費6300万円を追加補正予算に計上し、市議会で可決いただきました。</p> <p>その後、平成26年1月に入札を行いましたが入札不調となりましたので、2月の国の公共工事設計労務単価の引き上げ等を受け、工事費2億2000万円の増額と大型の遊具など事業用整備品購入費3000万円の補正予算を平成26年2月の第1回定例会に計上し、市議会で可決いただきました。</p> <p>そして、工事着工後、現場における施工についての協議により、設計図所において不明確であったものや、工期、安全性等を考慮して必要と判断したものとして、鉄鋼工事追加や太陽光発電と床暖房の見直し等の設計変更を行い、工事費1億3500万円の補正予算を平成26年9月の第3回定例会に計上し、市議会で可決いただきました。</p>	福祉部